

学校評価は、子どもたちがより良い教育を享受できるよう、その教育活動等の成果を検証し、学校運営の改善と発展を目指すための取組です。

学校評価

令和５年度２学期末学校生活に関するアンケート結果 西予市立三瓶中学校

評価４：あてはまる 評価３：どちらかといえばあてはまる 評価２：どちらかといえばあてはまらない 評価１：あてはまらない

設問	質問内容	グラフ（保護者回答率９０％）	％	評価４	評価３	評価２	評価１	２学期 肯定的	１学期 肯定的	評価・分析・改善策等
1	三瓶中学校の生徒は、学校で楽しく、充実した生活を送っている。		教職員	25%	75%	0%	0%	100%	92%	・教職員、生徒は９割以上が肯定していますが、保護者はやや数値が下がっています。一人一人を大切にした教育を推進するためにも、評価が低い生徒、保護者への支援を大切に、誰もが充実した生活を送ることができる学校を目指します。
			生徒	50%	43%	5%	2%	93%	97%	
			保護者	25%	64%	11%	0%	89%	97%	
2	三瓶中学校の生徒は、日々の授業の学習内容をだいたい理解できている。		教職員	0%	100%	0%	0%	100%	100%	・１学期の評価と大きく変わっていませんが、生徒、保護者共に否定的な意見が多く、本校の課題の一つです。「分かる・伸びる・考える授業」を目指し、職員での研修を充実させ、情報交換を密にしながら、授業を行っていきます。
			生徒	22%	62%	13%	3%	84%	85%	
			保護者	6%	65%	24%	5%	71%	74%	
3	三瓶中学校の生徒は、自分から進んで学習に取り組んでいる。		教職員	8%	59%	33%	0%	67%	58%	・教職員、生徒、保護者共７割程度の肯定率で、最も評価が低かった項目です。受け身な場面が多く、主体的な取組ができていない様子が分かります。目標を持たせ、個に応じた支援を行うことで進んで学習に取り組む態度を育てたいと思います。
			生徒	21%	52%	24%	3%	73%	70%	
			保護者	5%	59%	29%	7%	64%	74%	
4	三瓶中学校の教員は、それぞれの生徒のよいところを認め、言葉や態度で伝えている。		教職員	25%	75%	0%	0%	100%	92%	・１学期の評価と大きな変化はありませんが、否定的な意見の生徒・保護者にしっかりと目をつける必要があります。生徒のよいところを認めるためにも、教職員が、生徒の活動場面をしっかりと見届けることが求められます。
			生徒	28%	60%	11%	1%	88%	87%	
			保護者	14%	66%	14%	6%	80%	86%	
5	三瓶中学校の生徒は、校則やスマホなどの学校のルールを守っている。		教職員	17%	75%	8%	0%	92%	92%	・１学期の評価とほぼ同じですが、保護者と生徒の評価には２０％以上の差があります。生徒がしっかりと自分の行動を見つめ、自己評価できるように指導していくことも重要です。家庭との連携を図り、よい生活につなげていきます。
			生徒	72%	26%	2%	0%	98%	98%	
			保護者	19%	57%	19%	5%	76%	74%	
6	三瓶中学校の生徒は、いじめや差別をしない、許さないという態度で生活できている。		教職員	17%	83%	0%	0%	100%	100%	・教職員、生徒は９割以上が肯定していますが、おおむね満足のいく結果ではありますが、否定的な意見を見逃すことなく、生徒の様子をしっかりと見ていくことが重要です。定期的なアンケートや教育相談をさらに充実させていきたいと思っています。
			生徒	58%	37%	4%	1%	95%	97%	
			保護者	20%	64%	13%	3%	84%	86%	
7	三瓶中学校の生徒は、あいさつの習慣が身に付いている。		教職員	17%	41%	17%	25%	58%	42%	・教職員、生徒共に非常に低い評価となっています。特に生徒は１５％下がっており、あいさつができていないと感じているようです。生徒自らが、あいさつの意義を理解し、進んであいさつができるように生徒会活動を活性化させる必要があります。
			生徒	17%	56%	23%	4%	73%	88%	
			保護者	23%	61%	14%	2%	84%	86%	
8	三瓶中学校の教員は、教え方を工夫し、わかりやすく教えている。		教職員	17%	83%	0%	0%	100%	100%	・教職員、生徒は９割以上が肯定していますが、保護者は１０％下がっています。２の質問項目とも大きく関連しており、同様の評価となっています。教職員が常に学び続ける姿勢を持ち、個に応じたわかる授業を追究していくことが求められます。
			生徒	32%	60%	7%	1%	92%	96%	
			保護者	7%	71%	17%	5%	78%	88%	
9	三瓶中学校の教員は、いけないことはいけないと指導している。		教職員	58%	42%	0%	0%	100%	100%	・教職員、生徒、保護者共に９割以上が肯定しており、おおむね満足のいく評価となっています。生徒や保護者との信頼関係をしっかりと構築し、いけないことに対しては毅然とした態度で指導していきます。
			生徒	59%	36%	5%	0%	95%	96%	
			保護者	27%	64%	7%	2%	91%	93%	
10	三瓶中学校は、いじめや生徒間のトラブルにきちんと対応している。		教職員	58%	42%	0%	0%	100%	100%	・１学期と比較して、生徒の評価がやや下がっています。教職員はきちんと対応しているつもりでも、一部の生徒にとっては十分ではないと感じているようです。一人一人に寄り添い、組織的な体制でトラブルに対処していきます。
			生徒	47%	40%	13%	0%	87%	94%	
			保護者	18%	69%	9%	4%	87%	87%	
11	三瓶中学校の部活動は、充実している。		教職員	8%	75%	17%	0%	83%	92%	・教職員、生徒共に１学期と比較して、評価が下がっています。保護者については、肯定が６割で、最も低い評価となっています。部活動の地域移行を念頭に置きながらも、部活動の意義を再確認し、より充実した部活動になるよう努力していきます。
			生徒	45%	43%	7%	5%	88%	92%	
			保護者	14%	47%	21%	18%	61%	61%	
12	三瓶中学校は、学校の様子や教育方針を家庭への連絡（通信、ホームページ、電話連絡、家庭訪問など）によってわかりやすく伝えている。		教職員	83%	17%	0%	0%	100%	100%	・教職員、生徒、保護者共９割以上が肯定しており、おおむね満足のできる評価となっています。地域に開かれた学校づくりを推進するためにも、学校からの情報発信は欠かせません。今後も積極的に学校の様子を家庭や地域に届けていきます。
			生徒	63%	35%	2%	0%	98%	98%	
			保護者	39%	52%	9%	0%	91%	94%	

学校教育目標『心豊かで、生き生きと活動する生徒を育てる』を実現するために、日々の教育活動に取り組んできました。新型コロナウイルス感染症が５類感染症に移行され、様々な行事が通常の形に戻ってきました。アフターコロナの１年間で見つかった新たな生活様式や新たな課題を見つめ直していくことが求められます。昨年度に引き続き、学校生活に関するアンケートをオンライン上で行うこととしました。保護者からの回答率は９０％でした。御協力ありがとうございました。

学校評価は、実施して終わりではなく、改善への手掛かりを今後に生かしていくことが重要です。今回の学校評価では、「自ら進んで学習に取り組む態度」や「あいさつの習慣」において課題が見られました。これらの課題を解決していくためのキーワードは「主体性」にあると言えます。生徒自らが自分で考え、行動できる環境を整えていくことが求められています。そのためにも「まずはやってみる」ことが重要です。スモールステップを積み重ね、課題を解決しながら、学校教育目標の実現に向けて努力を続けていきたいと思います。